

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第155号 (2024.2.4-2024.2.11)

◆ 参加者：しまねこくん、@sasa 守宮、古城エツ、何となく短歌、

花野玖、はゆき咲くら、汐田大輝、砂原妙々、西脇祥貴、石原

とつき、百舌、温(ま)、西沢葉火、りゅうせん、水の眠り、石

川聡、みしま、おかもとかも、岡村知昭、朝森たけ、しろとも

片羽 雲雀、かれん、靈夢、汐音 葉月、馬勝、エミリー・メー

ブル・ボーン、いずみ、まつもともしこ、月立耀、みさきゆう、

蔭一郎、城水めぐみ、かきもちり、涼閑、まつりへきん、ヴた

こだよ、さー、池田 突波、うつわ、東(こ)、雷(らじ)、武

井窓花、Tatsuo Kanase、上崎、と金、ユウ、えみ、やは、牧野林

めりい、そとねこ、短歌マガジン、加那屋こあ、琳譜(りんぷ)月波与

生(五四名)

◆川柳・俳句

何月の海でも魚 知らない子 やは

履く靴を選ぶタイプのシンデレラ さー

定位置に立てばさみしい蝶番 上崎

菓子パンの空洞説にある派閥 蔭一郎

雪泥にとどく動悸がとまらない 蔭一郎

FAXのあの音させて走る野火 蔭一郎

にわとりの卵にしてはカリフォルニア 岡村知昭

おぼろづき上目遣ひのうまき人 花野玖

飛び出しも梅を嗅ぐのも禁止です しまねこくん

春遅々と一墨ベース増やしけり しまねこくん

勇ましく死ぬ用もなし春の雪 しまねこくん

淋しさの目の奥にあるヘルシンキ みしま

息白しラマーズ法の猫ひろし 馬勝

陰翳礼讃きゆうりのイボを数えます かれん  
福助のうすき笑いをパンに載せ 汐田大輝  
うるわしき廢墟を抱いて眠る牛 汐田大輝

\*

春浅しドーナツ店へ回り道 8080 守宮  
原因も結果もない2人だけ 砂原妙々  
王政の髪を結う中島みゆき 西脇祥貴  
春シヨール全て長さを計りけり 百舌  
ココアあたりの喫茶店 西沢葉火  
画数が劣化していく誕生日 りゆせん  
やなことあつてフィンシエに避難 石川聡  
春の喉 開かれてゆく Beulahen みしま  
蕎麦猪口は目線に支配されている おかもとかも  
茶碗欠け思い出せないプロログ しろとも  
雪泥のテキスタイルのドロワーズ 片羽雲雀  
別れとは 突如訪る ものと知る 靈夢  
かご盛りのみかんに信長の花押 いずみ  
「言葉つかい」になつて魔法をかけた本 まつもととこ  
リセットボタン連打の末の破裂音 城水めぐみ  
来ぬ人は行方知れずと冬夜空 涼閑  
準急に乗れずめそめそ四分休符 まつりぺきん  
銀河鉄道の火の粉か椿落つ 池田 突波  
詠み終える前に旅立つ芭蕉さん うつわ  
不器用な告白をして雪だるま 東こころ  
認められたい顔なら顔認証にした 雷  
切り花に軟膏を塗る破戒僧 Tatsuo Kanase  
恋愛の後の後その後は後／＼(ト)ー(ト)ー(ト)ー(ト)ー(ト)ー  
とり皮をあつめてパリし弟よ えみ

\*

わたしよりさびしい人が七を引く 月波与生

◆ 短歌

六花舞う星座を模して砂浜に未来の地図をかくわたしたち

水の眠り

放課後の教室はもうオレンジでわたしひとりで空気がいい

む 水の眠り

ざざ降りの慚愧の森にいる人を草原で待つときどきは呼ぶ

みさきゆう

いつまでも凍ったままのさよならをみぞれのように零して

漸う みさきゆう

雪つもる冬のプールは翡翠色赤に染め行く女子補習 ヴた

こ だよ

死んだふりどうせ一人の寝室で手首だけ切る朝まで暇で

ヴたこ だよ

\*

行き先は天候任せ旅人はバイクに跨り楽園目指す 古城エ

ッ

棚の隅地層のように重なった不揃いの皿我が家の歴史 何

となく短歌

ゆるゆるでゆるゆるゆるるるるるるる 包丁すべる 今夜

はおやすみ はゆき咲くら

そこらへんなカメレオンなエピローグ深呼吸へ伝達 石原

とつき

今朝もまた女子アナ伝える三連休いいよ僕には関係ないし

朝森たけ

私たち強くて脆い者だからこれからずっと、支え愛たい

汐音葉月

母に聞くあなたが母となった日の痛みを癒す娘になれたか

月立耀

声帯が君の形を忘れてる夢で走ったみたいな叫び かきもちり

怒りの炎空染める燃えつくし記憶も灰となれ 温(ぬる)

傷などはほんとうはもう許せててこんな場所まで歩いてき

たし/madokart

お悔やみを待つわたくしは生け垣の花より音もなく咲いている と金

正されてあなたの想う我となり酔わぬ身体の我を忘れて  
ユウ

◆詩・短文

※ 掲載はありません。

◆作品評から

棚の隅地層のように重なった不揃いの皿我が家の歴史 何となく短歌

く不揃いの皿！我が家も一緒です！大きさ一緒でも微妙に波打ってるデザインだったりしてうまく重ならないんですよね（牧野林めりい）

有名な高慢電車通りますちきちき来たぞ信号黄色 山羊の頭

く「高慢電車」「ちきちき来たぞ」は面白い。「信号黄色」で素に引き戻されたような。（月波与生）

ふるふるゼリー 危な絵の白い肌 いずみ

く「危な絵」ときて白い「肌」まで言った方がいいかど

うか。「危な絵の白」で止めたくもあり。(月波与生)

雪泥にとどく動悸がとまらない 蔭一郎

くせつデい、とどく、どうき、ガ

前半から中盤への濁音の畳みかけが「雪泥」の語観(ビジュアルからうけるイメージ)、語の響き(韻)への照応を見事にみせている。

最後のフレーズ「とまらない」が、切迫感やオドロオドロシさを増幅させているところが、たまらない!! (石川聡)

準急に乗れずめそめそ四分休符 まつりぺきん

く揺れてるつり革音符に各停(そとねこ)

ゆるゆるでゆるゆるゆるるるるるる 包丁すべる 今夜

はおやすみ はゆき咲くら

く包丁をどう使おうとしているのか。ちよつと怖い感じがします(短歌マガジン)

5

駅の名に森があるから亡き人が囁いてくる木霊《こたま》  
となつて 唯有

く『ミツバチのささやき』という映画はとてもいい作品  
なのだけと言葉では伝えにくい。例えば本句を提示して  
「こういう映画みたことある？」と繋げるのもいい。(月  
波与生)

泣きやんで九官鳥の屁とわかる 岡村知昭

くまず九官鳥は屁をするのか？という問題がある。する  
としてどうやって聞き分けるか？句は簡単に九官鳥の屁を  
言い当てる。(月波与生)

FAXのあの音させて走る野火 蔭一郎

くもう、いまの若い人たちはあの音わからないんじゃないかな  
いかしらね…(加那屋こあ)

王政の髪を結う中島みゆき 西脇祥貴

く「王政の髪を結う」が何の象徴表現なのか？気になる  
のは置いといて、「」音に収められていて好き♪(石川聡)

いつまでも凍ったままのさよならをみぞれのように零して

漸う みさきゆう

く「漸う(ようよう)」が結語に使っているの、自分には  
衝撃でしたー！凄い♪(石川聡)

勇ましく死ぬ用もなし春の雪 しまねこくん

くかつこいい、思わず笑ってしまった(笑)(琳譜bot)